NPO法人天覧山・多峯主山の自然を守る会 会報 No.68
2014.6.1

やませみ

もくじ

●生き物と人間が共生するオアシス
●ホタル観察に寄せて
●環境変化に対応する野鳥たちの生活
●アライグマの爪痕調査
●ヤマネ生息調査結果
●東谷津レポート
●ふる里散歩

ふる里散歩

天覧山周辺の自然に親しめるふる里散歩へ、どうぞふるってご参加ください。

夏休み親子企画

6/29(日)「ホタル観察会」の巻

★小雨決行

厳しかった冬、大雪を越えて、今年のホタルはどうでしょうか……たくさんの小さな光に出会えますように。

集　合/能仁寺山門前　午後７時
持ち物/懐中電灯、山道を歩ける服装、雨具
要申込/先着30名
申込先/てんたの会　042-974-1691（浅野）
参加費/300円（小学生以下100円）

7/20(日)「虫ムシ探検隊」の巻

★雨天中止

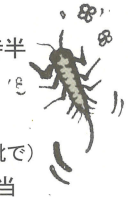
飯能河原の森で生きる虫たちに出会いに、さあ出かけましょう！

集　合/飯能駅南口　午前9時集合
（解散：12時）
持ち物/飲み物、蜂対策でサンダル
！黒い服装禁止
要申込/先着20名（小学３年生以下は保護者同伴）
申込先/さいたま緑のトラスト協会
048-824-3661（7/1～受付）
参加費/200円

8/10(日)「名栗川を歩いてみよう！」の巻

★雨天・増水時中止

道を降りて、川を歩いてみると、涼しい別世界が広がりますよ！たくさんの水棲生物との出会いにも感動です。



集　合/能仁寺山門前　午前9時半
（解散：13時頃）
要申込/15名先着順
持ち物/川を歩ける服装（運動靴で）
着替え、飲み物・お弁当
申込先/てんたの会　042-974-1691（浅野）
参加費/300円（大人、子ども共）

9/14(日)「野草観察会」の巻

★雨天中止

初秋の谷津田に、秋の草花たちを訪ねてみませんか！

集　合/能仁寺山門前　午前9時半
申　込/不要
持ち物/飲み物・お弁当・山道を歩ける服装
参加費/300円（小学生以下100円）

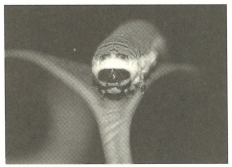
【共通　共催/はんのう景観トラスト・埼玉県生態系保護協会飯能名栗支部・はんのう市民環境会議】

東谷津レポート

写真／会員　山梨光明

NPO法人天覧山・多峯主山の自然を守る会公式ホームページ「東谷津のページ」でカラー写真を公開中！天然の美しさをぜひご覧ください。
http://www.tenranzan.com/higashi-yatsu.htm

ウグイスカグラ…枯葉色の雑木林に春を一番に告げる花



シロジマエダシャクの幼虫…こちらを見ているように見えるのは擬目のような模様！

やませみ 68

発行日/2014年6月1日
編集・発行/NPO法人天覧山・多峯主山の自然を守る会
事務局/TEL042-974-1691(浅野正敏)
埼玉県飯能市柳町18-17
●機関誌「やませみ」は「銀河堂」「ロビングッドフェロー」「丹三郎」「飯能市立図書館」「飯能市市民活動センター」にあります。
●「やませみ」へのご意見を下記アドレスへお寄せください。投稿もお待ちしています。

会員募集中!!

1995年、巨大住宅団地開発の計画がきっかけで発足した「NPO法人天覧山・多峯主山の自然を守る会」は、この地の自然をいつまでもという思いで、様々な活動を続けています。どうぞあなたも会員になって活動を支えてください。

＊年会費　●正会員……普通会員　2,000円
特別会員10,000円
●賛助会員……1口10,000円
＊会費・カンパ送り先…郵便振替口座「NPO法人　天覧山・多峯主山の自然を守る会」00580-9-16342

URL=http://www.tenranzan.com/　E-mail=tenta@tenranzan.com

生き物と人間が共生するオアシス

天覧山・多峯主山一帯は、空を飛ぶ鳥の目から見ると、ぽっかりと浮かぶ孤島のように感じるのではないでしょうか。周辺は住宅団地やゴルフ場、工業団地などで囲まれているのです。20世紀後半の丘陵地開発によって飯能市街地周辺にあった多くの緑が消失してしまいました。かつて市街地周辺の里山は、谷津田や畑での食料生産の場所として、また薪炭生産の林や建築用材生産植林地など、人々の生活と密着して営まれて来ました。戦後における化石燃料への主エネルギー転換や減反政策、外国産木材輸入などの社会状況の変化により、次第に里山から人々が離れて行き、前述のような開発地としての標的となったのでした。

そうした中、1995年、飯能のシンボル地とも言える天覧山・多峯主山一帯にも分譲地開発申請が出されたのでした。これに対し保全を訴える多くの市民によって「天覧山・多峯主山の自然を守る会」が結成され、活動が続けられて来たのです。

21世紀に入って少子高齢化や環境優先へと時代が変化していく中、土地所有者であり開発事業者である西武鉄道は、2005年に分譲地開発の中止を決定。以後社会貢献として自然環境・地球環境への配慮を掲げ森の保全と活用へと方針転換しました。現在「飯能・西武の森」として間伐、除伐、下草刈り等の整備が行われています。

奇跡とも言える保全が図られたこの地は、里地・里山と呼ばれる二次林を主とした身近な自然がある場所で、知床や白神山地といった大自然とは違います。しかし箱庭のようなこの場所に、まるで宝石箱のように多様な動植物が生息している事に驚かされます。

この環境の保全を持続させていくためには、土地所有者と行政、そして私たち市民が、それぞれ出来る事の役割分担を自覚して、謙虚に関わり続けて行くことしかないと考えます。

維持していくためには、適度に手入れがされ、ハイキングや散策、観察会など活用されている事が必要です。もしも放置されたままの山になってしまったら、誰も見向きもしなくなり、かつてのように森が破壊されていく運命となってしまうでしょう。私たちが出来る事は、より豊かな多様性に富んだ自然環境となるよう手助けをしていく事なのではないでしょうか。私たちが子どもの頃、トンボや蝶を追いかけ遊んだ風景を取り戻すため、様々な生き物とふれあえるオアシスのような環境を残し、次代へと引き継いでゆくことが一番大切な事と思います。

一方、観光地としての視点も大切なことであります。公共交通機関を利用して、たくさんの観光客が訪れ、帰りには商店街にも立ち寄り買物をしていくなど経済効果を上げて行くことも、自然環境を持続させるためには必要なものとなります。まさに今、飯能市で取組んでいるエコツーリズムの（経済と環境保全を両輪とする）考え方と一致します。これはオーバーユースによる環境破壊といった課題との戦いでもあります。例えばですが、桜の木だけをたくさん植えて、花見の時期の短期間に10万人の観光客が来られたら、桜以外の自然が破壊されてしまうでしょう。それよりも、四季折々の花や姿を変化させる森の木々、そこに棲息する動物たちなど、自然の妙を楽しむために年間を通じて訪れてくれたならば、単純に計算して10万人／365日で1日に274人で同じことなります。そうした視点で、散策回遊コースづくりや公衆トイレの設置などの課題に取組みながら、生き物と人間が共生するオアシスとなる場が出来れば良いと思っています。

近い将来、天覧山・多峯主山を案内するガイドシステムが出来、入山するハイカーの方々に対して、この地の歴史や自然環境を伝え、訪れた人達皆さんが人間にとっても、ここに生息する生き物にとっても、とても大切な場所であることを知り、稀少な野草などを持って行かないなどのマナーを共有し、何度でも訪れたいと思って頂けるようになる事、それが私の願いでもあります。

NPO法人　天覧山・多峯主山の自然を守る会　代表　浅野正敏

ホタル観察に寄せて

昨夏、息子がマレーシアのキナバル山に登った後、ふもとのジャングルクルーズのイベントに参加した時に見た、ホタルの話。静かに進むジャングルクルーズの船の前方に、明るく光るホタルたち。その数のおびただしいこと！「日本ではホタルっていうとありがたがってるけど、地元ではうるさいほどホタルがいるんだって」とのこと。どちらがいいかは別として、日本のホタルの生息環境は、大切に後世に伝えたいとても貴重なもの。ホタル観察で山に入る際は、ルールを守って、楽しんでください。

（埼玉県生態系保護協会
飯能名栗支部長　黒住浩次）

①　自然を守るために

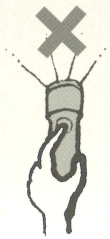
- ホタルの成虫、幼虫を捕らないこと
- 他所からホタルやカワニナ等を持ち込まないこと（他所から持ち込んだものは、すべて広い意味で外来種です）
- 喫煙、花火等は行わないこと（山火事を出さないために）

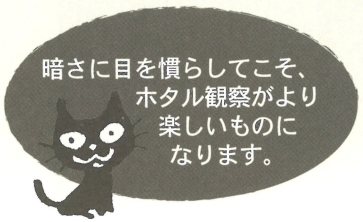
②　自身を守るために

- ホタル観察では、長袖、長ズボン、(長)靴で。サンダルは危険です。
- 草むらに入り込まないこと（マムシやハチ、ダニ、蚊なども一緒に生息しています）

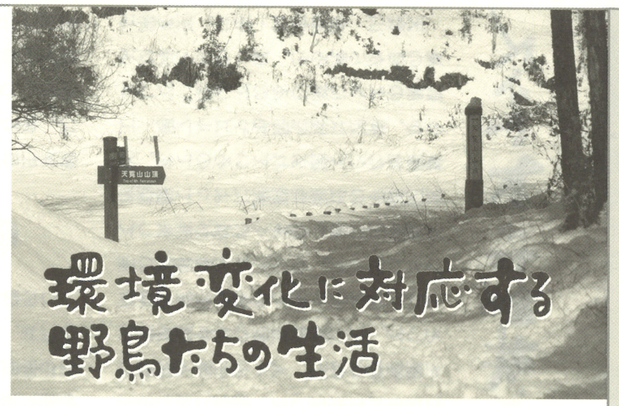
③　皆で楽しくホタル観察するために

- 懐中電灯等、照明の使用は控えること





環境変化に対応する野鳥たちの生活



2014年2月9日撮影（１回目の大雪）

２０１４年の冬は、何と言っても２度の大雪に見舞われた野鳥の生活を垣間見る絶好の機会に遭遇したこと（しかし市民の皆さん方には大変な冬であったこととお察しいたします）。谷津の中でも雪折れの被害甚大で、大きな枝や杉が途中から折れたり、根こそぎ倒れたりと今も尚その傷跡が残っています。

ツグミたち、姿はどこに？

今期の冬鳥たちの特徴は警戒心の強さに表れており、ツグミ類の姿を天覧入り谷津の湿地帯では殆ど観察できず、鳴き声だけ林の中から聞え、あのトラツグミも湿地で見ることは殆どありませんでした。

一つの要因として考えられることは茅場の茅が刈られ、水場に藪がなくなって谷津が明るくなり猛禽類の出没が多く、隠れる場所が無い田んぼ周辺を小鳥が敬遠したことが考えられます（茅場で昨年見られたシジュウカラ、ホオジロ、メジロ、ウグイス、アオジの姿が今年は見られなかった）。田んぼではモズが縄張り、ジョウビタキ、ルリビタキ、カシラダカの渡り鳥達は湿地帯の奥で観察できる程度でした。

ルリビタキ

状況一変！
2度目の大雪の3日後初めて野鳥の緊急避難のような局面に遭遇！

大雪後3日経ってやっと湿地に地面が出ているのはこの小さな谷津の一部だけ、田んぼ側は全面真っ白で地表も見えない。

腰を落ち着ける間もなく目の前の枝にモズが止まる、気がつくと狭い地表にカシラダカの小さな群れ、その隣には、キセキレイ、更に手前にはジョウビタキの♀（僅か5メートル未満の距離内で4種）。驚きは未だ続き、谷津の奥側に目をやれば、ルリビタキ♂その奥にシロハラ、その隣にトラツグミとこれも奥行15メートル未満の地表を採食中（3種）合計7種の野鳥、更にカシラダカを除く6種は、夫々が縄張りを持つ鳥同士にもかかわらず、近接する場所で争いもせずに微妙な距離を保ちながらの採食行動、えっ！これは野鳥の世界の「暗黙の掟なのかな？」と思わず感心してしまった。

今期の冬鳥は、昨年に比較して種類においては8種未観察（昨年3回以上観察された野鳥を対象）で、クロジ、アオジ、ベニマシコ、ホオジロ等、草の種を主として採食する鳥たちが11月末に茅場で確認されながら、12月に茅場や藪の一部が刈られ、谷津田が明るくなった事により、留鳥のシジュウカラ、メジロ、エナガも餌場と隠れ場所に戸惑い、早々と別の場所に移動したものと推測されました。昨年12月～本年3月まで93日間に及ぶ谷津田での観察だけで全てを語れるものではありませんが、生物多様性の保全を考える時、谷津田での保全活動は四季のサイクルに従い保存計画が動植物全体のバランスを考慮して検討される事が必要と痛感しました。

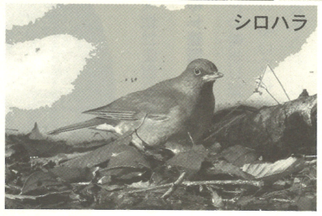
（モニ1000鳥調査担当　河合　裕）

ルリビタキ

ジョウビタキ

キセキレイ

モズ


シロハラ

トラツグミ

ルリビタキ VS ジョウビタキ、
キセキレイ VS モズ
シロハラ VS トラツグミ
いつもの縄張り争いをせずに僅かな地表の
狭い空間で「呉越同舟」の光景にビックリ！

アライグマの爪痕調査

皆さんご存知でしょうか？埼玉県では外来生物法に基づく「アライグマ防除実施計画」により年間2,000頭を超えるアライグマが駆除されています。飯能市でも駆除数は150頭を超えました。アライグマは主に夜間に活動するため、普段はなかなか目にする機会がなく、私たちの関心もあまり高くはありません。しかし、このアライグマが近年、急激に増加し日本各地で問題になっています。

今年１月25日、美杉台公民館においてアライグマについてのシンポジウムが催されました。「アライグマは何が問題なのか」というテーマについて、国内外の研究者や「てんたの会」会員、市民、大学・高校の生徒・教育関係者、行政、企業、NPO関係者など約80名が参加し、熱気に包まれて終了しました。そして、アライグマが農水産業、文化財や生態系へ及ぼしている被害の実態を知り、改めて深刻な状況であることを肌で感じました。

このシンポジウムを受けて「てんたの会」では、飯能市内のアライグマの生息調査を実施することになりました。調査方法は市内の寺社を回り、建物の柱や壁に残された爪痕を調べることによって生息状況を把握するというものです。調査は生息状況の把握とともに調査を通して多くの市民に「アライグマ問題」しいては「野生動物と人間の関わり」について関心を持ってもらうのが目的です。ぜひ多くの「てんたの会」会員、市民の方々の参加をお待ちしております。

対馬　良一（会員）

爪痕調査講習会

～つめあとで知るアライグマの実態～

2014年6月28日13時半～15時半

会場／郷土館及び諏訪八幡神社

交通／車：圏央道狭山日高ICより約20分
徒歩：西武池袋線　飯能駅下車　北口より徒歩約20分
バス：国際興業バス　北口ロータリー2番乗り場より名栗車庫行き
西武飯能日高行き等（名栗方面行き）「天覧山下」下車

講演／「市民参加による爪痕調査」（講師／関西野生生物研究所代表 川道美枝子氏）
●調査方法の説明及び調査の実習（実習地：諏訪八幡神社）
●今後の調査についての打ち合わせ

主催／てんたの会

入場無料

こちらもぜひどうぞ！

当会会員の河合裕氏による

天覧山周辺地域の野生生物観察

映像記録ビデオ鑑賞会及び意見交換会

6月8日(日)14時30分～

場所／富士見地区行政センター
1階集会室ホール

主催／てんたの会

入場無料

ヤマネ生息調査結果

巣箱に入っていたヤマネ

親子でヤマネの巣箱設置

ヤマネ生息調査は、多くの団体・個人の協力に加えて、市の市民活動支援事業補助金と協力をいただいて順調に実施でき、多くの成果が得られたと考えています。

住民の方々から21件のヤマネの生息情報が寄せられたほか、17箇所に調査用巣箱を設置した結果、おそらく以前は天覧山も含む市内山間部に広く生息していて、現在も少なくとも原市場や吾野以西の山間部には生息していることが確認できました。

調査の過程で、山間部の全世帯にヤマネのチラシを配布したほか、市報、読売新聞・文化新聞・産経新聞に掲載されたことで、市民にヤマネが身近に生息していることと、保護すべき貴重な動物であることを周知できました。これまでネズミ取りにかかったり、猫に捕まったりしていたヤマネを、今後は多少とも助けることができるでしょう。ある地区では、ヤマネのぬいぐるみをつくったりして、ちょっとした地区アイドルのようになっています。

ヤマネのエコツアーへの活用についても、模擬エコツアーをやってみて実施に当たっての留意点などを検討しました。魅力あるエコツアーを提供するには、巣箱を設置して継続してヤマネを観察するなど生態の知識を蓄積することが重要です。地域の方でヤマネについて知りたい、エコツアーをやってみたいという方は、御連絡ください。

さらに、一番の成果は、調査の中で、専門家、関係機関、地域の団体等のネットワークができたことだと思います。筑波大学、県立自然の博物館、高校の生物教諭、名栗げんきプラザなどに知り合いができ、今後の活動に心強い味方が増えました。

今後、巣箱調査は設置場所を変えながら、継続していきたいと思います。

（ヤマネ調査隊　大石　章）